

■ お手入れについて



- 金属タワシや毛の硬いカメノコタワシなどは傷つきやすいので、絶対に使用しないでください。シンナー、ベンジン、アセトンなどの溶剤は使用しないでください。また、塩素系薬品(漂白剤、カビ取り剤など)は絶対に使用しないでください。



<電動商品の場合>

- お手入れ時、電装部品に水がかからないよう、ご注意ください。故障するおそれがあります。電装部品に不具合が生じた場合は、まずお取扱いの建築会社、工務店、または販売店にご相談ください。

商品を大切に長く使うために、商品の材質に応じた方法でこまめに、お手入れすることが大切です。

お手入れしないままで放置すると、表面に付着した汚れは、しみや腐食・さびの原因となってしまいます。

汚れが付いたら早めにお手入れください。汚れを早めにお手入れすることが、商品を長持ちさせる最良の方法です。

特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスの影響により、しみや腐食・さびが進みやすいのでさらにこまめにお手入れしてください。

● アルミ製商品 / スチール製商品 / 樹脂製商品



■ スチール商品

- さび、腐食、色落ちに対する注意が必要です。表面に汚れがついたら早めに洗い落としてください。
玄関ドアの鋼板表面を水拭きや中性洗剤によるお手入れを行っても表面の色や艶があせた状態が改善されない場合は、研磨材の入っていない鋼板に適したワックス(注1)を使い、お手入れ(注2)することをお勧めします。

注1：(ワックスの一例)セラリカコーティングピュア

注2：ワックスを使用する場合にはワックスの用途を確認し、ワックスの説明書に従いお手入れを行ってください。
ドア鋼板のお手入れに適さないワックスの使用は、変色や汚損の原因となります。

- 防錆剤を塗布すると汚れがつきにくくなり一層の効果があります。(鋼板雨戸)

■ 樹脂製商品

【薬品への配慮】

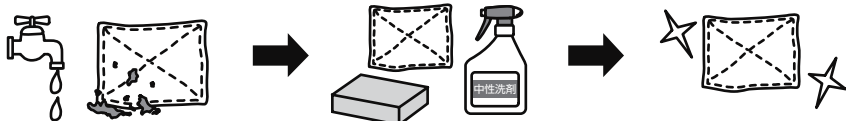
- 有機溶剤が樹脂表面に付着すると、ひび割れやはく離が生じますので、お手入れには有機溶剤を使用しないでください。また、塩素系薬品(次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤など)が樹脂の表面に付着したまま放置された場合、表面が変色することがあります。付着した場合はすみやかに洗い落としてください。

【キズへの配慮】

- 日常の使用に対して十分に耐えますが、砂などが付いたままふき掃除をすると、表面にキズが付くおそれがあります。

【熱への配慮】

- ストープやアイロンなどの熱源を近づけたり、触れたりしますと変形することがありますので、熱源を商品に近づけないでください。



- ① 柔らかい布に水を浸し、表面についたホコリ・砂などを洗い落とします。

- ② 柔らかい布またはスポンジで全体を水拭きをします。
※水拭きで落ちない場合は、中性洗剤(1~2%の水溶液)を使い軽く洗い流します。

- ③ 乾いた布で、十分に水分を拭き取ってください。

24 錠受けの調整

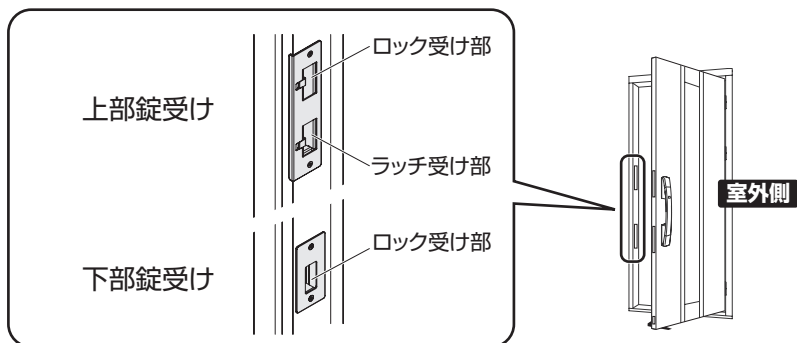
【スマートドア ヴェナート・プロント／防火ドアGシリーズ ヴェナート の場合】

ドアのロックがかかりにくくなった時は、錠受けの位置を調整してください。

調整についてお願い

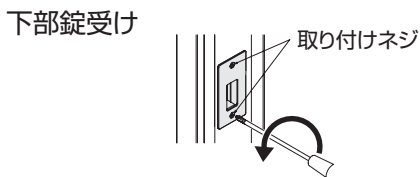
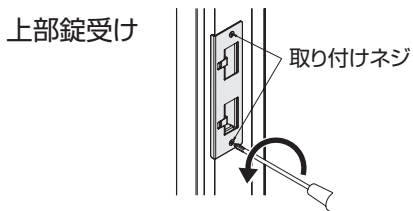
調整は、最小限にしてください。調整時、ドアクローザの調整と併せて行ってください。

(使い方&お手入れガイドブック 窓・ドア編 をご覧ください。)



1 錠受けの取り付けネジをゆるめてください。

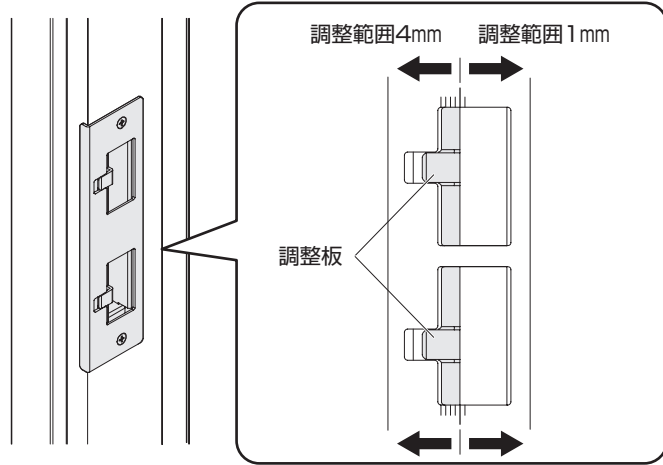
※ネジは絶対にはずさないでください。



2 錠受けの位置を調整してください。

●上部錠受けの場合

調整板を左右に動かして下記の調整範囲で調整してください。

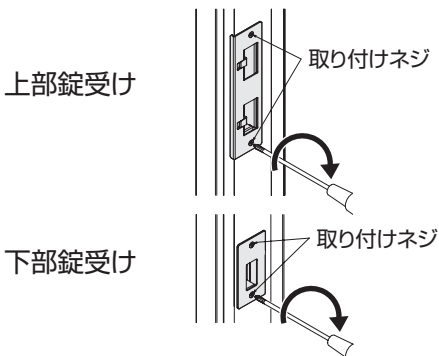


●下部錠受けの場合

錠受け全体を左右に動かして下記の調整範囲で調整してください。



3 調整後、上下錠が錠受けへ確実におさまっているか確認し、必ずネジをしっかりとめ付けてください。



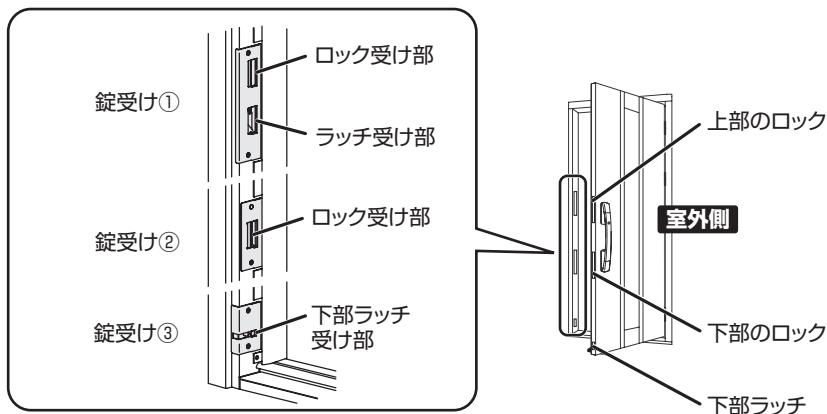
【防火ドアGシリーズ 玄関ドアの場合】

ドアのロックがかかりにくくなった時は、錠受けの位置を調整してください。

調整についてお願い

調整は、最小限にしてください。調整時、ドアクローザの調整と併せて行ってください。

(使い方&お手入れガイドブック 窓・ドア編 をご覧ください。)



- 上部のロックがかかりにくい場合
⇒ 錠受け①を調整してください。
※錠受け①を調整の際は、平行を保ったまま
で調整を行ってください。
- 下部のロックがかかりにくい場合
⇒ 錠受け②を調整してください。

- 1 錠受けの取り付けネジをゆるめてください。
- 2 右記の調整範囲で左右に動かして位置を調整してください。
- 3 調整後、上下錠が錠受けへ確実におさまっているか確認し、必ずネジをしっかりとめ付けてください。

※錠受け①と③は、内部で連動する仕組みとなっています。錠受け①を調整して下部ラッチがかかりにくくなってしまった場合は、錠受け③を調整してください。

